

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな 学力	・個別の包括支援プランにもとづく教育実践	子どもの「できる」を育むため、校内での授業実践だけでなく、家庭や地域にも学習の場を広げ、どんな場面でも子ども達の「できる」姿が発揮できる授業実践を進めている。障害のある子どもを「地域に生きる一人の生活者」として捉え、双方向の援助による、豊かで幸せに生きることのできる新たな地域の創造を目指した取組であり、障害のある人が積極的に参加・貢献していくことができる共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の取組である。学校や地域において、たくさんの「ひと」、様々な「もの」、いろいろな「こと」に自ら積極的にかわり、より自分らしく、より生き生きと過ごせる子どもを育て、障害のある子どもの継続的なキャリアアップを図りたいと考えている。	・個別の包括支援プランの更新状況
	・「わかる、できる」授業の実践		・ユニット会議、研修会実施状況 ・できますシート活用状況 ・できます授業研究会の実施状況
	・キャリアアップ教育の推進	そのため本校では、総合養護学校に再編して以来、「障害種」、「学校」、「学校種」の3つの場を超えることを目指した取組を推進してきた。昨年度の地域制総合支援学校の4校合同研究発表会の総括において、「3つの場を超える取組の検証が不十分ではないか」という反省が挙げられた。そこで、今年度の本校の研究において、「障害種」、「学校」、「学校種」の3つの場を超える取組が、現在の教育実践の中でどの程度達成できているのかを検証する。	・できますシート活用状況 ・できます授業研究会の実施状況 ・「情報バンク」の活用状況
	・指導力の向上		・参観日の保護者アンケート ・授業改善、工夫の状況
	・高等部の教育課程 ～施行から本格運用へ～		・参観日の保護者アンケート ・授業改善、工夫の状況
	・芸術活動の充実		・創作活動に関するユニット数、授業数 ・児童生徒の作品数 ・作品展などへの出展数
	・交流及び共同学習の推進		・交流及び共同学習の実施回数 ・交流先学校の児童生徒の障害理解の変化
	・「障害種」、「学校」、「学校種」の3つの場を超えることを目指した取組を推進		・障害種を超えたユニット数 ・校外学習で地域に出かける数 ・交流及び共同学習の状況



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	
	評価者・組織	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・昨年度に引き続き、「できますシート」を中核に据え、1年間の継続的な授業研究会(できます授業研究会)を、年間36回実施予定であり、できますシート活用により導き出された「質の高い情報(できる限りの人的支援に頼らず「～(手だて)があれば…できる」という情報)」を、個別の包括支援プランの作成や更新に役立てていきたい。	・「できます授業研究会」を通して、子どもの課題が明確になり、より適切な支援・手だてが行われるようになり、授業改善が図られている。これまで以上に、できる子どもの姿が見受けられるようになってきた。 ・各学部において、ケース会議やユニット担当者会議が充実してきている。	・できますシートを活用した「できます授業研究会」は重ねることで、授業改善が図られ、人的支援に頼らない「質の高い支援」ができるようになりつつある。これらの情報を「情報バンク」に入力し活用することで、これまでの育ちの過程を踏まえて、さらに授業改善を図り、子どもの「できる」を育てていきたい。
・「情報バンク」に関しては、全児童生徒分のデータを入力した。今年度は、できます授業研究会において、「情報バンク」を活用し、情報バンクの情報が授業づくりや様々な場面での児童生徒の「できる」を発揮することについて有効であったかどうかの検証を随時行う。	・「情報バンク」を活用することにより、児童生徒の育ちやこれまでの指導支援を踏まえた指導の充実やより有効な情報の伝達が期待できる。	・情報の移行について、どの時期にどのような情報を伝える必要があるのか、「情報バンク」の情報をいづれかに○の検討を行いたい。
・参観日の保護者アンケートでも、概ね、「授業のねらいは明確である」、「適切な支援が行われている」という評価をいただいている。	・高等部の教育課程を変更し、今年度から本格運用を行っている。	・高等部の新しい教育課程の運用について、学部でさらに話し合いを深め、よりよい教育課程運用を行いたい。
・教育課程委員会の小委員会として「交流及び共同学習PJ」を発足した。3つの場を超える教育の取組の一つである、「学校種を超える」について、交流及び共同学習を切り口として検証していきたい。	・芸術活動や創作的な活動に取り組むユニットが各学部で数ユニット、設定されており、さまざまな場面で創作活動に取り組んでいる。また、今年度、英国ロイヤルバレエ団に来校していただいてダンス指導を受けた。また、玄関前ギャラリーの拡大を図った。	・今後、さらに校外の作品展に出展する機会を増やしたい。
	・交流及び共同学習の推進のため、小・中学部の児童生徒数名を研究対象として選り、毎月1回程度、担任引率のもと、交流及び共同学習を実施しており、「交流及び共同学習PJ」において、方向性を検討しながら取組を進めている。	・「交流及び共同学習PJ」において、交流及び共同学習の取組の成果と課題を整理し、「学校種」を超える取組のあり方について検討する。



学校関係者評価	
評価日	学校運営協議会 学校評議員
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
	障害のある子どもたちが豊かに暮らせる「双方向の援助による新たな地域」についてさまざまな意見をいただいた。
	・近所の人が「ここには、こういう方がおられる」と知っていることが大事。地域の住民に総合支援学校の子どものことや取組をもっと知ってもらい必要がある。総合支援学校で学んだことを地域で発表する場があることも大切である。総合支援学校の強みを生かし、地域ともしっかりつながっているのではないかと。
	・人が集まり住みたいと思えるような地域づくりを行っていくことが大切ではないか。そういう地域づくりに、障害のある人たちへのサポートが強みになると思う。
	・居住地校交流で、地域の子ども達が、うちの子どもの良いところやできるようなったことを認め、積極的に関わってくれ、とてもうれしかった。このような居住地校交流が活発に行われる地域であらうと思う。

豊かな心	・挨拶の励行	・「あそべ」の取組の推進 (あ…あいさつ、そ…そうじ、べ…べんきょう) ・生徒会を中心にした挨拶の励行	・自発的な挨拶の実施状況	⇒	・始業式、終業式や全校集会において、学校長が、「あそべ」の励行について、全校児童に話している。 ・毎朝、生徒会の生徒が積極的に各学部の児童生徒に挨拶するなど、生徒会による挨拶励行は毎日実施されている。 ・今年度も緑のカーテンに取り組んだ。 ・春と秋に実施される桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として、児童生徒による清掃、教職員による清掃に取り組んでいる。	・自分なりの方法で、自分から挨拶できる児童生徒が増えつつある。 ・言語聴覚士については、今年度より2名体制にした。言語聴覚士や情報教育専門家と連携し、構音指導、言葉の学習やICT機器を活用したコミュニケーション指導について充実が図られている。 ・性教育の実施について、さまざまな場面で相談され、「生と性に関する授業」が行われるようになってきている。	・挨拶の励行は、言語指導・コミュニケーション指導と平行して、言語聴覚士とも連携し、積極的に推進していく。 ・「できます授業研究会」において、言語聴覚士や情報教育専門家の意見や助言も取り入れる等、専門的な視点を踏まて、対人関係やコミュニケーション指導の充実を図る。 ・性教育については、性教育に関する各学部・学年ごとの年間指導計画を作成し、さらに充実を図る。	⇒	・学校へ訪問するたび、大きな声で気持ちよく挨拶をしてくれる児童生徒が多い。
	・対人関係、コミュニケーション指導の充実	・ケース会議の充実 ・言語聴覚士、情報教育専門家との相談 ・言語聴覚士2名配置の体制にする	・言語聴覚士、情報教育専門家の活用状況		・各学部の授業において、「お掃除ユニット」、「洗濯ユニット」、「リサイクルユニット」等を編成し、環境・衛生にかかわる内容の学習に取り組んでいる。 ・高等部2年生の学年ユニットが、芝刈りに取り組んでいる。	・緑のカーテンの取組では、今年度も、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 ・冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。	・高等部2年生による芝刈りについては、毎週、火曜日に取り組んでいる。今後も継続的に取り組んでいく。		・地域の各種団体の関係者は、総合支援学校の子どものことや取組を随分とわかるようになってきたと思う。地域の一般の人にもわかってもらえるような活動をもっとしてほしい。
	・性教育の推進	・性教育の実施	・性教育の実施状況		・各学部の授業において、「お掃除ユニット」、「洗濯ユニット」、「リサイクルユニット」等を編成し、環境・衛生にかかわる内容の学習に取り組んでいる。 ・高等部2年生の学年ユニットが、芝刈りに取り組んでいる。	・緑のカーテンの取組では、今年度も、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 ・冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。	・高等部2年生による芝刈りについては、毎週、火曜日に取り組んでいる。今後も継続的に取り組んでいく。		・学校がいつもきれいに整備されており、芝生グラウンドや緑のカーテン、簡易ミストなど、自然に優しい教育環境も整っている。
	・環境教育の推進	・緑のカーテン ・桂坂統一クリーンデー呼応清掃活動 ・ユニットにおける授業の充実 ・グラウンドの芝生の維持、管理	・緑のカーテンの取組状況 ・ユニットにおける「環境」に関する授業の実施状況 ・生徒による芝の手入れの取組状況		・医療的ケア検討委員会を随時、開催し、学校医や主治医の意見を参考にしながら、児童生徒の健康・安全管理に努めている。 ・スクールバス乗務員を対象に、障害理解などの研修を実施。	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校がいつもきれいに整備されており、芝生グラウンドや緑のカーテン、簡易ミストなど、自然に優しい教育環境も整っている。
健やかな体	・健康管理の徹底	・医療的ケア検討委員会の実施 ・登校時の消毒運動 ・感染予防教室の設置	・医療的ケアの実施状況 ・登校時の消毒運動の実施状況 ・感染予防教室の利用状況	⇒	・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。	⇒	・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。
	・安全管理の徹底	・トイレに低床ベッドを設置 ・ケアルームの設置 ・スクールバス乗務員への研修実施	・低床ベッドの活用状況 ・ケアルームの活用状況 ・スクールバス乗務員への研修状況		・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないのか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。
	・体力の向上	・部活動 ・スポーツ大会への参加	・部活動の充実状況 ・スポーツ大会への参加状況		・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないのか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。
	・自立活動の充実	・身体の学習	・身体の学習の実施状況		・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないのか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。
	・防災、安全教育の推進	・避難訓練 ・緊急時シミュレーション ・防犯研修 ・交通安全教室	・避難訓練、緊急時対応訓練の実施状況		・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないのか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。
					・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に來校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。 ・訓練等実施状況 避難訓練 2回／年、 緊急時シミュレーション 3回／年 防犯研修 1回／年、 交通安全教室 1回／年	・健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図れている。 ・毎朝、生徒会の生徒が、校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 ・感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 ・今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 ・PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。 ・災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。	・基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 ・登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 ・感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していきたい。 ・トイレ介助が必要な児童生徒について、教職員への身体への負担だけでなく、児童生徒の行動特性を踏まえ、二人体制でトイレ介助する必要がある児童生徒のリストアップを行い、指導体制を整える。 ・児童生徒の運動時間の確保、健康の維持増進に引き続き取り組む。 ・安全、防災、緊急時対応について、管理職の役割を明確にし、再確認を行う。また、若年教員への研修を充実させる。		・学校運営協議会において、「安全・防災・緊急時対応」について熟議を行い、下記のようなご助言をいただいた。 ・PTAが災害用備蓄物品としてリッツを備蓄されているが、リッツは余分に水分が必要になるのであまり適さないのではないのか、また、全ての子どもさんが食べられないのではないのか。各家庭に災害用備蓄物品を持たせてもらって保管するなどの方法も検討してはどうか。 ・最近のトイレは全て電子化されており、手動で排水できないものもある。そうになると、バケツで水を入れても排水できないので災害時に使えない。事前に確認をしておいた方がよい。 ・国道9号線は、災害時に緊急車両等の通行道路になる。9号線を車が走れる状況であっても、一般車両は3日ほどは通行できないと聞いている。

独自の取組	・学校運営協議会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の開放については、障害のある方の加盟されている団体を対象に、グラウンド・体育館・生活学習室を開放している。 ・学校運営協議会を年間4回開催し、保護者・地域・関係機関等の協力を得ながら、学校運営協議会主催事業として、「校区地域子交流会」、「芝生まつり」等、様々な取組を実践している。 ・育支援センターのこれまでの小中学校への支援内容は、主にアセスメント等の相談や情報提供にとどまっていた。今回の事業では、PT・ST等の専門家による小中学校へのサポート体制を充実し、小中学校在籍者へのより直接的で個別の指導・支援の実現をめざす。 	・学校運営協議会主催事業の実施状況、熟議と協働の内容。
	・家庭、学校、地域の双方の援助による教育の推進		・連絡帳記載事項や参観日の保護者アンケート
	・外部専門家配置事業による総合支援学校のセンター機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士等の外部専門家による公開研修会の実施状況 ・小中学校におけるタブレット型端末を活用した専門家による直接支援の状況 ・育支援センターへの相談における外部専門家の活用状況 	

⇒

<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の基本方針を「学校から地域へ、地域から学校へ」双方向の援助による新たな「地域」の創造」と設定し、「市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくりを推進する」「地域と協働・連携し、子どもたちのキャリアアップを支援する」「障害のある子どもの『学び』と『育ち』を支える地域づくりを推進する」の3点をねらいとして、学校運営協議会で検討内容が学校支援活動に繋がるよう取組を進めている。 ・わくわくクラブは、校区の川岡小学校を会場として、月2回開催している。 ・にこにこクラブと子育て支援窓口 西の風は、これまでに2回実施した。 ・サマースクールは、7月19日～7月21日の3日間実施した。 ・芝生まつりは10月22日（土）、校区地域交流会は10月12日（水）に実施予定である。 	<p>地域との双方向の援助及び協働により、それぞれの人が自分の役割に応じて学校運営に参画するコミュニティ・スクールを目指し、学校運営協議会において「学校評価・管理プロジェクト」、「キャリアアップ支援プロジェクト」、「地域とともにプロジェクト」の3事業を展開している。</p> <p>①学校評価・管理プロジェクト… 学校に対する地域からのニーズを踏まえた教育活動や地域と連携した実践事業について計画、実行、検証。</p> <p>②キャリアアップ支援プロジェクト… 子どもの「できる」を活かす教育の推進と、地域での生活を豊かにするための学習展開の支援。</p> <p>③地域とともにプロジェクト… 障害のある児童生徒にとつての身近な生活の場単位での「学びと育みの場づくり」をめざす地域活動を推進。</p> <p>・児童館にも巡回し、合同研修会等を実施している。</p> <p>・前期、小学校の育成学級を対象にタブレット型端末を活用した外部専門家による直接支援を実施した。</p> <p>・前期、3回の公開研修会を実施した。毎回、30名を超える参加者がある。</p>	<p>地域の方への障害のある子どものことや総合支援学校の取組を発信することについては、「わくわくクラブ」、「にこにこクラブ」、「サマースクール」、「芝生まつり」、「子育て支援窓口 西の風」、「校区地域交流会」などの取組の充実や新たな取組について、学校運営協議会に置いて熟議を深める。</p>
---	--	---

⇒

--	--	--